

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 3 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

### ◇高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

#### [処理設備]

- ・H24/1/17 18:42 セシウム吸着装置を起動。18:45 定常流量に到達。
- ・H24/2/2 11:12 第二セシウム吸着装置を起動。11:15 定常流量に到達。

#### [貯蔵設備]

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

### ◇トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元→移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/30 16:05～ 2/3 10:20 移送実施 ・2/3 16:07～ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/30 16:12～ 2/3 10:12 移送実施
6号機	・6号機タービン建屋→仮設タンク	・2/3 10:00～16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (2/3 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位:O.P.+ 3,682 mm(水位上昇累計:4,899 mm) 2/2 7:00 から 178 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位:O.P.+ 3,415 mm(水位上昇累計:4,141 mm) 2/2 7:00 から 391 mm 上昇

### ◇トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (2/3 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P.+ 850 mm (2/2 7:00 と同じ)	O.P.+ 2,818 mm (2/2 7:00 から 16 mm 上昇)	O.P.+ 4,268 mm (2/2 7:00 から 3 mm 下降)
2号機	O.P.+ 3,044 mm (2/2 7:00 から 10 mm 下降)	O.P.+ 3,019 mm (2/2 7:00 から 9 mm 下降)	O.P.+ 3,187 mm (2/2 7:00 から 9 mm 下降)
3号機	O.P.+ 2,996 mm (2/2 7:00 から 15 mm 下降)	O.P.+ 2,909 mm (2/2 7:00 から 12 mm 下降)	O.P.+ 3,210 mm (2/2 7:00 から 9 mm 下降)
4号機	—	O.P.+ 2,920 mm (2/2 7:00 から 17 mm 下降)	O.P.+ 2,951 mm (2/2 7:00 から 6 mm 下降)

## <放射性物質のモニタリング>

### 海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第二 3,4号機放水口付近	2/2	8:20	ND	0.03	0.02
福島第二 1,2号機放水口南側約7km	2/2	8:00	ND	0.02	ND

・その他福島県沖合 7 地点(2/1 採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。なお、福島県沿岸 2 地点は、悪天候のため採取中止。

<使用済燃料プールの冷却> (2/3 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*1	17.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	12.5 °C
3号機	循環冷却システム	運転中*2	22.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	27 °C

\*1 システム二次系エアフィンクーラー:停止中, \*2 システム二次系冷却塔:停止中

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

【3号機】・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

・2/3 13:24～15:07 使用済燃料プールへヒドラジン[腐食防止剤]を注入(約2m<sup>3</sup>)

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (2/3 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.7 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約2.0 m <sup>3</sup> /h)	24.0 °C	24.6 °C	106.3 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約2.9 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約5.7 m <sup>3</sup> /h)	46.3 °C	58.0 °C	110 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約3.0 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約5.4 m <sup>3</sup> /h)	41.7 °C	51.0 °C	101.6 kPaabs

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

<その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を継続実施中。

・H24/1/11～ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)間のトレンチにおける放射性物質を含む水溜まりの発見(H23/12/18)を受け、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始。

※日々の点検結果については別途参考配布資料を参照

・H24/2/3 9:30～13:45 3号機原子炉建屋上部および機器ハッチ開口部等のダストサンプリングを実施。

・H24/2/3 12:30 頃 当社社員および協力企業作業員が、淡水化装置(逆浸透膜)の濃縮水貯槽において、タンクの継ぎ手部に、にじみが発生していることを確認。タンクを設置しているコンクリートの表面に継ぎ手部のにじみから伝わった水が、にじんでいるが、水溜まり状にはなっておらず、海洋への流出はない。その後、タンクの継ぎ手部のボルトを増し締めし、14:22、タンクの継ぎ手部からのにじみが停止していることを確認。にじみのあるタンク継ぎ手部の表面線量率を測定した結果、ガンマ線0.9mSv/h、ベータ線50mSv/h でした(なお、雰囲気線量率はガンマ線0.2mSv/h、ベータ線7mSv/h)。また、漏えい量は少量で目視では判別できないが、にじみのある継ぎ手部の直下のコンクリート基礎部とタンクフランジの隙間に局所的に高い線量(ガンマ線22mSv/h、ベータ線2000mSv/h)が確認されたことから、滴下があったものと考えている。タンクの継ぎ手部よりにじんだ水については、淡水化装置(逆浸透膜)で処理した後の濃縮水(塩水)と推定している(なお、昨年12月20日に蒸発濃縮装置入口で採取した水の放射能濃度は、セシウム134:1.2×10<sup>4</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム137:1.7×10<sup>4</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、全ベータ:2.7×10<sup>3</sup>Bq/cm<sup>3</sup>)。にじみが確認されたコンクリート表面をアクリル板、および足場板で遮へいた結果、表面線量率が、ガンマ線1.0mSv/h、ベータ線15mSv/hになったことを確認。

・H24/2/3 昨日(2/2)に本資料にてお知らせした以降、2/3 15:00 迄に新規で確認した水漏れは以下の通り。

・純水移送ライン(純水タンクから共用プールへの移送)のヘッダフランジ部(2/3 11:25 頃発見) ろ過水\*:鉛筆の芯1本分

※ろ過水:ダムより取水した水

以上